



中津峰山頂にて  
(左が著者)

こんにちは、今号のマイキャンパスライフを書かせていただくことになりました。大学院1年の上田堅人です。工学部生物工学科を卒業し、この4月から大学院に進学しました。ここでは私の趣味であるキノコについて書かせていただきますと思います。

私は現在、微生物(菌類や細菌類など)を扱う研究室に在籍しており、その中でもキノコを形成する菌類に強い興味を持つようになりました。幼いころからボーイスカウトで山や森林に慣れ親しんでいたからなのか、興味を持ってからは瞬間にこの世界へのめり込んでしまい、今では毎週キノコを探しに山や公園を歩き回るほどです。

なぜ私がキノコに興味を持ったのか、まずはその独特な見た目です。普段目にする傘状の物、ポール状、お椀状と形状だけでも多彩ですが、赤・紫・青・緑などの画材も驚くカラーバリエーションに40cm越えから目に見えるギリギリの大きさまでの幅広いサイズなど個々の種に強い個性があるためいくら観察しても飽きることはありません。しかしそれ以上に私がキノコに魅入るのは動物や植物と一線を画した奇妙な生態についてです。植物の残骸や動物の糞の分

解者として生活するものや植物と共生するもの、植物や昆虫に寄生するもの、同じ菌類を食べるものなど生活様式だけでも様々です。胞子の拡散方法も植物の花粉の拡散方法よりも多彩です。何より面白いのは生態と進化の系統を対比させた時に見えてくる多様性ですが、語りだすと一頁では収まらないのでここでは割愛させていただきます。

私がキノコに興味を持つてから約1年半、400種近くのキノコを見つけてきました。中には私と同じようなキノコ愛好家が自分の目で見たいと渴望するような非常に稀な種も見つけています。しかし、日本だけでも1万種・世界では6万種いると推定されるキノコのうち私が見つけてきたのはほんの僅かです。私のキノコ探索は終わりそうにはありません。

普段の生活では全く意識しないものを探してみると、そこには驚きや発見があり、それは日々の生活を豊かにしてくれるのだと私は思っています。神秘と多様性に富んだ菌類の世界、あなたも覗いてみてはいかがでしょうか？  
最後に、このような貴重な機会を与えてくださった関係者の皆様に感謝を申し上げます。



- ①キヌガサタケ
- ②キツネノサカズキ (極めて稀)
- ③赤星病 ナシ亜科の植物に寄生する
- ④タマゴタケ
- ⑤ミミズタケ (稀) ナラタケに寄生する
- ⑥スズキシメタケ (極めて稀) セミに寄生する
- ⑦セミタケ (稀) ニイニイゼミの幼虫に寄生
- ⑧マントカラカサタケ 40cmを越える大型

ツクツクボウシタケの採取の様子

**My Life Situation**  
出身: 兵庫県  
サークル: ヨット部(OB)  
趣味: キノコ、登山、一眼レフ

# 徳大生 大活躍!

## 新しい土を耕すように 新しい活動が始まった



平成28年4月に新設された「生物資源産業学部」同学科に入学したメンバーを中心に結成された全員1年生のサークル「アグリクラブ」。初代部長となった井角さんだけでなく、みんなが農業未経験のために手探りで土を耕し、種をまき、収穫しています。

「農業が専門ではありませんが、机上の勉強だけでは得られないものを体験するためにみんなに呼びかけました」

徳島県立農業大学校(石井町)の跡地に畑を借りて、毎週2・3回作業します。職員の方に指導してもらったり、ネットで調べたり。種や肥料、農薬などはホームセンターで探します。

部員の中西智暉(なかにしともき)さんは、  
「雑草を抜いたり、害虫の駆除など、思いもしない苦勞の連続です」と、わずか半年ながら、農業の大変さが身にしみたと、

「でも野菜をたくさん家に持って帰って喜ばれました」と、収穫の喜びも経験できました。

「農業の大変さもわかりましたが、やったことがないことばかりでおもしろいです」と、平田結風(ひらたゆいか)さん。

「キュウリやサツマイモ、餅米などを収穫しました」

「実際に作業すると、どの農薬や駆除剤が効くか効かないかなどがわかりますし、将来は自分たちの研究で新しい農作物が出来ると思うとやりがいがあります」と、井角さんは将来の新しい研究に思いをはせるとともに、



左から中西さん、井角さん、平田さん

「サークルの方向性を作って、後輩たちに継いでいきたいです」  
また1年生、学部も学科も1年生。新しい学部で、何をすればいいかわからない中、自分たちの可能性を信じて船出した彼らの活躍に期待しましょう。

